

A-181 和菓子に関する研究（第1報）—正史と名古屋古今菓子について—  
相山女学園大家政 ○猪俣節子 小川安子

目的 和菓子は神社供闇などの儀式に使用される供物、献上物などにその起源があるとせられ、その正史も長く時代と共に材料、製法、形状、嗜好など変遷して現代にいたっている。加えて名古屋は、尾州徳川家が清洲から政治文化の中心を移してから約400年を経過し、菓子も茶道の隆盛と共に発達した。その材料などもまた濃尾平野における穀物その他を主原料として加工され、庶民の生活とも密接な関係があることとも思われる所以、本報においては、その特徴を把握する目的で現在に至るまで伝承される種々の和菓子について調査的研究を行なった。

方法 古文献の残る文庫、神社などの資料について調査すると共に、老舗などにおいて伝承される和菓子の製法について実地調査を行ない、文献、著書、図版などを参考として和菓子の正史的変遷について追究した。

結果 唐菓子の餡餅や環餅が熱田神宮ほか諸社に、神饌菓子および土産品として、また惡疫退散祈願菓子として実在することを認め、また徳川園蓬左文庫には江戸末期写しの御菓子見本帖（茎菓子、干菓子）の資料が数多く残されていることを確かめた。そして尾州公時代より伝わる糖菓子、飴類、餅類、饅頭類、おこし類、掉物、焼物、団子、外良、茶菓子、種々など調査したものの中約1/5が現存していないことが判った。